島を覆うPFAS汚染 いのち守る使命果たせ

有機フッ素化合物（PFAS）汚染の問題を県議会で繰り返し取り上げ、迫る中で、沖縄県は「土壌調査の実施」にようやく言及した。調査手法と評価に関する「国の基準」がないという理由で後ろ向き一辺倒だったが一転、「しっかり行っていく」と玉城デニー知事が答弁し、県として調査する方針を明言した。

背景には、「PFAS汚染から市民の生命を守る連絡会」の熱心な取り組みがある。国県に住民の健康調査を強く求め、また独自に北谷浄水場供給地域の住民の血中濃度調査を実施。9月頃にはその結果が公表される見通しであり県民の関心は高い。

米は3000倍に厳格化

米国環境保護庁（EPA）が生涯健康勧告値を厳格化したことも局面を変えた。2016年北谷浄水場からのPFAS検出を受け、沖縄県は、水質にかかる基準を設けるよう国に要請。4年かかって2020年に暫定目標値（PFOSとPFOA合計で1トリルあたり50ng以下）が示され、県企業局は「世界でもっとも厳しいレベル」としてその基準をクリアする手立てを様々講じてきた。が、今回のEPA勧告値はPFOSで0.02ng、PFOAで0.004ng。もはや基準を下回るかどうかではなく、「含まれていないこと」を要求される事態になった。

沖縄タイムス
2022年7月12日
PFAS土壌調査へ
県議会 知事一転 来年度にも
事故以外で初
新基地反
本島・八

6月定例会一般質問でPFAS問題を質問する仲村未央
=2022年7月13日
本会議場

県環境部が実施した米軍基地周辺の水質調査では、屋良ウブガーで1600ng、チュンナガーで1000ng、川崎川上流で100ng、金武町排水路上流で260ngなど47地点中33地点で基準値を超えた。空自那覇基地、海自那覇基地、空自知念分屯基

会派立憲おきなわ
2022年8月19日
沖縄県議会議員
仲村未央版

地（南城市）内でも著しい汚染が発覚。中城村、西原町など基地周辺以外の場所でも検出されている。

ＰＦＡＳは自然の中で消滅しない。原因と汚染範囲を特定し、影響を受けている土壌ごと浄化しなければ、河川に、地下水に、いつまでも浸み出してくる。

命を守る自治体の使命

浄化の責任は言うまでもなく原因者であり、その責任を逃れるかのごとく立入調査を拒否し続ける米軍の悪質さは断じて許されない。併せて、日米地位協定の改定に尻込みし、沈黙する日本政府の弱腰も看過できない。

しかし、極微量たりとも含まれてはならない強い毒性が指摘される中で、沖縄県も手をこまねいている場合ではない。住民の命を預かる自治体として、主体的に調査し、被害の深刻さを可視化して、米軍を、日本政府を動かさなくてはならない。

過去に沖縄市は特筆するべき取り組みをした。２０１３年当時の東門美津子市政は、改修中のサッカー場から、ベトナム戦争時に枯葉剤を製造販売した米国企業名が記されたドラム缶が発見されたことに重大な関心を払い、独自の調査を実施した。

沖縄防衛局とは別にサンプルを採取し、専門家に評価を求め、枯葉剤を含む複合汚染を明らかにした。市民の命を守る自治体の使命に立つ取り組みだった。

米軍の二重基準を問う

他方、２０１４年にＰＦＡＳ汚染が発覚した在ドイツの米陸軍基地では、汚染原因者の米軍自ら原状回復の設計及び工事の契約を行い、浄化作業を進めている。在外基地であるドイツと沖縄、その対応の「二重基準」についても国際社会に明らかにしていく必要がある。

平和を願い祈る

慰霊式典では山内小学校（未央の母校！）2年生の穂菜さんが平和の詩を朗読
＝6月23日、糸満市摩文仁平和祈念園、穂菜さんを囲んでご家族と

津田さんからインタビューを受ける

復帰 50 年の沖縄、同世代のジャーナリスト津田大介さんのインタビューに応えた。津田さんは愛知トリエンナーレの芸術監督、表現の自由を追求している
＝7月15日、県議会にて

宮島島の農園を視察

農業生産法人を訪ね上地登代表に会う。6次産業の一人者。マンゴー、3尺バナナなど果樹生産と観光を見事に融合させている。農園に広がるブーゲンビレアのパノラマは圧巻
＝7月25日、宮古島市伊良部